

● 視点アジア



茨城県つくば市内のスーパーの店頭で売られている梨。一つ300円近い値段がついている＝9月30日

## [分かち合う世界へ]47、 助け合い共存する好機

2021/10/03 16:54

新型コロナウイルスの影響と仕事の関係でバンコクから戻ることが長い間できず、1年半ぶりの日本への一時帰国がかなったのは8月初旬だった。2週間の隔離期間を終え、久しぶりに買い物に出掛けて驚いたことの一つは果物の質と値段の高さだ。

スイカや桃、梨やブドウなどがスーパーマーケットの果物売り場に飾られ、見ただけで感激してしまった。同じ果物であっても、タイの市場に出回っているものと比べると、色や形が格段に良く、見るからにおいしそうだが、値段を見てびっくりしてしまった。梨が一つ250円、桃が300円以上、スイカは中型で安くても1500円。2、3年前までは数個の袋入りの梨が300～400円くらいで買えた、庶民の果物だったような気がする。憧れの桃に至っては高価すぎて手が引っ込んでしまった。ここはごく普通の庶民向けのスーパーマーケットだ。

タイでは中型のスイカが一つ200円、高くても300円くらい。面倒なので二つに割ってスプーンでほじくって食べるのが常だったが、そんなぜいたくをしたら叱られてしまいそうなくらい日本のスイカの値段は高い。

日本の果物市場がより美味で質の良い高級志向に転じているのは理解できるが、

新型コロナウイルス禍の中で収入が減り、生活に苦しむ人たちが増大している現実から考えると首をかき上げてしまった。それでも店頭に売りに出ているということは、高価でも買える客がたくさんいるということなのだろうと納得した。

新型コロナウイルスは、一般庶民の間でそれにより利益を得る人たちと、影響されない人々、そして、仕事を無くし生活困窮に追い詰められた人々の間で大きな格差を広げる結果を招いている。公平であるはずのわれわれの社会は分断され続けている。

それに加え、10月以降、パンや小麦、食用油、大豆製品、ガス、電気代など、生活必需品の値上げが追い打ちをかけ、そのしわ寄せを貧しい人たちが一番多く受けることになるだろう。

われわれが真剣に目を向けなければならないのは、こうした社会の弱者たちに手を差し伸べ、いたわり、助け合い、みんなが力を合わせて国難ともいわれるこの非常な事態を乗り切る、思いやりのある温かい社会の構築だ。そのためにも、弱者救済優先に照準を合わせた政策を政治のリーダーシップに期待するとともに、われわれ一人一人が、自分たちの身の回りのできる思いやりや支援の輪を広げることが求められている。何もしない政治を批判したり、うわべだけの同情を寄せたりすることは簡単だが、小さなことでも自分にできることが何かあるはずだ。

そうした人と人との心の通った助け合いや繋(つな)がり、こうした非常事態を乗り切る原動力になり、人と人との絆をより強くするだろう。見方を変えれば、新型コロナウイルス禍はお互いを思いやり、助け合い、分かち合い、共存してゆく真の持続可能な社会を構築する貴重な機会を与えてくれているのかもしれない。

<こぬま・ひろゆき> 1953年、東京都生まれ。明治大卒。筑波大大学院博士課程前期修了。博士(農学)。元国連食糧農業機関(FAO)事務局長補兼アジア太平洋局長。元明治大学特任教授。2017年にタイ王冠勲章を受章。18年、一般社団法人(非営利)アジア自立支援機構を設立。両親、妻は本県出身。茨城県、バンコク在住。